

2024年7月18日

野嶋剛

## セミナー報告書

日時：7月13日（土）16:00-18:00

場所：大東文化会館 K302 室

主催：大東文化大学社会学研究所自転車とツーリズム・まちづくり研究会

テーマ：「日常と非日常の自転車活用」セミナー「迷走する日本の電動モビリティを検証する」

講師：疋田智／自転車問題評論家、澤山俊明／ベスビー・ジャパン社長

参加者：対面／28名、オンライン／75人（登録120人）

### ■疋田智氏プロフィール

疋田智(ひきたさとし) 1966年宮崎県生まれ。東京大学大学院工学系研究科修了。

博士(Ph.D.環境情報学・都市大)。自宅から会社までの通勤に自転車を使う“自転車ツーキニスト”として、自転車行政の形、理想的な都市交通のあり方などを論ずる。

TBS ラジオ「ミラクル・サイクル・ライフ」パーソナリティ、NPO 法人自転車

活用推進研究会理事。著書に「電動アシスト自転車を使いつくす本」

(東京書籍)「自転車の安全鉄則」(朝日新書)など。

### ■澤山氏プロフィール

澤山俊明(さわやまとしあき) 1976年京都府京都市生まれ。立命館大学政策科学部

卒業後、カルチュア・コンビニエンス・クラブなどを経て自転車ビジネスに関わ

るようになり、2017年にベスビー・ジャパンの代表取締役役に就任。



本セミナーのテーマである「日本の電動モビリティ」は、ここ数年、テクノロジーの進化に伴い、キックボード、電動アシストなど多くの種類が路上を走るようになり、新しい交通手段のなかで「電動」が重要なキーワードになりつつある。一方、走行上の安全性や従来の交通ルールとの整合性などは不十分とされ、解決すべき問題も多い。自転車問題評論家として電動モビリティ問題で活発に発信している本研究所の客員研究員・疋田智氏と、台湾生まれの世界的 e-bike メーカー「ベスビー」の日本代表を務める澤山俊明氏をお招きし、本研究所の研究テーマ「日常と非日常の自転車利用」にもつながる電動モビリティの将来と今日の課題を考えた。

疋田氏は『「電ジャラス自転車」が日本で蔓延する理由』と題した講演で、日本社会における電動自転車の導入が活発に進む一方で、法規制や自転車走行空間の曖昧さなどのた

め、利用者や歩行者を危険にさらすケースが目立っており、「電ジャラス自転車」に対する対策が急務であると主張した。

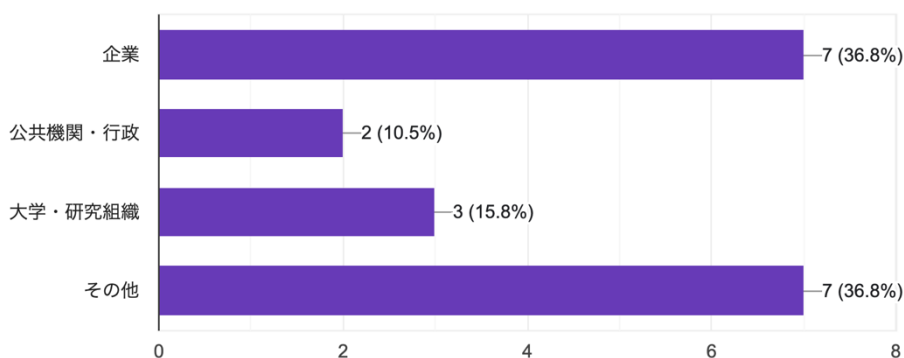
澤山氏は「日本および海外における e-Bike の進化と変遷、未来の方向性」というテーマで、最近の欧州視察などに基づき、電動モビリティの先進地である欧州の動向を中心に、詳細な資料や統計をふんだんに活用しながら報告を行った。

参加者からも活発に質問が出された。そのなかには「特例特定小型原付の歩道での振る舞いはひどい。法定以上の速度で歩道を走っている。そろそろ本気で歩道から自転車を締め出して、車道のみとする必要があると考えますがいかがでしょう」「日本では違法な電動自転車が売られている。法律や基準の曖昧さが危険な電動自転車が蔓延している原因ではないのか」「ヨーロッパのように販売段階での罰則規則を作れないものだろうか」「外国で、日本での「特定」「特例」のように車両のジャンルを細分化して通行区分を緩和している例はあるでしょうか」など、対面・オンラインから 10 件以上の活発な質問が寄せられた。

事後に行ったアンケートには 19 人から回答が寄せられた。参加者の内訳をみると「企業関係者」「その他」で 5 割以上を占めており、「大学関係者」を大きく上回っていたことから、今回のセミナーが大学を超えた広がりをもって注目されたことを裏付けた。

#### ご所属

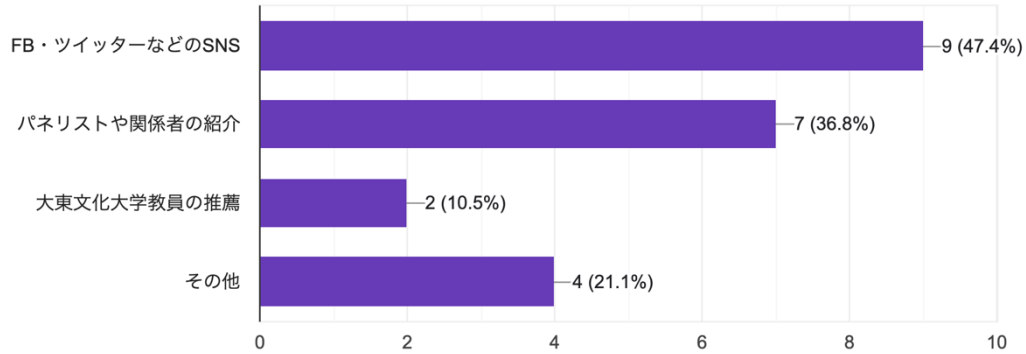
19 件の回答



イベントの参加のきっかけとなった理由についての質問には SNS 経由を挙げる人が最も多く、大学イベントの情報発信としては、研究所・学部・教員の SNS を通じた告知が一般社会へのアウトリーチとしては効果的であることを裏付ける形になった。

## イベントを知ったきっかけ

19件の回答



また、イベントの感想についての質問に対しては「時宜を得たテーマで、そのテーマの講師として最適の人選であった」「EURO ショーなど、世界各国における自転車の利用方法の違いやニーズなどについて、データを基に分かりやすく理解できた」「電動キックや違法電アシが、都会ではあふれていることは知っていましたが、これらは保険が適用されないという事実は初めて知りました」などの感想が寄せられた。



# 迷走する日本の『電動モビリティ』 を検証する

日時：2024年7月13日(土) 16:00～18:00

場所：大東文化会館 K302 号室 (〒175-0083 東京都板橋区徳丸2丁目4番21号 / 東武練馬駅徒歩3分)

主催：大東文化大学社会学研究所 自転車とツーリズム・まちづくり研究会

対象：教員、学生、一般、オンライン (zoom 配信)

参加方法：参加無料

対面参加は申し込み不要です。オンライン参加希望の方は  
右記のリンク・QRコードより事前に申し込みください。



<https://x.gd/11V2v>

## <趣旨>

日本の電動モビリティは、ここ数年、テクノロジーの進化に伴い、キックボード、電動アシストなど多くの種類が路上を走るようになり、新しい交通手段のなかで「電動」が重要なキーワードになりつつある。一方で、走行上の安全性や従来の交通ルールとの整合性なども不十分とされており、まだまだ解決すべき問題が多い。自転車問題評論家で電動モビリティの課題について活発に発信している本研究所の客員研究員・疋田智氏と、台湾生まれの世界的 e-bike メーカー「ベスピー」の日本代表を務める澤山俊明氏をお招きし、本研究所の研究テーマである「日常と非日常の自転車利用」につながる電動モビリティの将来と今日の課題を考える。

## <プログラム>

スピーチ1 (30分)：疋田智 (大東文化大学社会学研究所客員研究員、自転車問題評論家)

『『電ジャラス自転車』が日本で蔓延する理由』

スピーチ2 (30分)：澤山俊明 (ベスピー・ジャパン代表)

『日本および海外における e-Bike の進化と変遷、未来の方向性』

ディスカッションおよび Q&A (60分)：疋田氏、澤山氏、本研究所メンバー